

地域の経済動向（令和3年10～12月期）

《道北（上川・留萌・宗谷）地域》

1 経済動向に係る企業等の声（10～12月期）

【建設業】

- ・建設業では、石油関連の価格上昇やコロナの影響による資材調達の遅れ、労働力不足による工事期間の長期化が発生している。来年度もこれらの要因は大きく影響してくると考える。特に公共工事では、入札後の価格変動、資材調達遅れなどによる状況の変化に対して、適切な対応策を講じていただきたい。
（土木工事業（舗装工事業を除く））
- ・技術者の人材確保が厳しい。（土木工事業）
- ・戸建てについては例年並みの受注であるが、集合住宅は銀行の融資が厳しくなったためか減少傾向である。また、令和4年4月に施行される、建物解体における石綿報告義務化などにより、解体に伴う工事が多くなっている。（設備その他）
- ・令和3年12月～令和4年3月頃の仕事量が減ったため、従業員の雇用が厳しくなっている。（建築業）
- ・リモートワーク・テレワークに向けたインフラ整備の受注数増により、売上も増えている。（電気工事業）
- ・一般個人住宅を主とする民間工事発注の減速感が引き続き顕著。（総合工事業）
- ・人材については不足気味で、即戦力（資格保有者）の人員と将来を見据えて、若い人材の確保を積極的に進めたいと考えている。（設備その他）
- ・木材等の資材の値上げによって販売価格が上昇している状況。見込客の減少で工事受注が少なくなっている。（建築業）

【製造業】

- ・売上は全体として横ばいだが、コロナの影響で国外の一部の原材料が入ってこないため、原料費が上がっている。（製造業）
- ・原材料の値上がりは木材だけでなく、石油精製品など広範囲にわたり採算性が悪化している。（家具・木材）

【卸売・小売業】

- ・販路拡大に活用できるデジタルツールの講習会及び個別指導等への支援や助成を期待する。事業者が希望する販売ツールや経営管理のノウハウを習得できれば、ハード面の支援は必要であるが、やる気のある事業者は自身でデジタル化に対応できると思われる。現在は資金のある事業者が独自で取り組んでいる一方、資金の無い事業者は取り残されたままとなっているか、業者に依存して凌いでいる状態。
（その他の飲食料品小売業）
- ・建築資材の不足や価格高騰によって、この先建主が減少し、業界全体が冷え込むことが危惧されるので、安定した資材の供給や融資の増枠等の対策を期待する。（建築材料卸売業）
- ・今年度は国産・輸入品とも畜産品全ての価格が高騰しているが、価格転嫁ができていない。次年度からは業者の理解をいただきながら、適正価格で値上げをしていきたい。今年度は3連休が多いため、旅行客を含めた人の往来の回復を期待したい。（飲食料品卸売業）
- ・10月に入り、緊急事態宣言解除により来店客が少しずつ増えてきている。（衣類・身の回り品）
- ・前月より少々増加しているが、全体で昨年の2割減。（理美容・クリーニング）
- ・コロナウイルスのため旅行客が減少し、ホテル等の客数が減少した。大変厳しい状態である。
（理美容・クリーニング）
- ・コロナにより外食するという習慣が一気に薄れてしまい客数は低いままである。（飲食店）
- ・緊急事態宣言の解除を受けて来店者数の増加を見込んでいたが、現状は横ばい。客単価も横ばいかやや減少。年末商戦については、人の動きが活発になっており、帰省に合わせた予約商品（寿司、オードブル等）が好調。（小売業）

【運輸業】

- ・地域経済を支える持続的な公共交通を維持するためには、乗合事業者に対して、コロナ落込み分への実質的な支援金が必要。（一般乗合旅客自動車運送事業）
- ・軽油単価が一気に上昇しコストを圧迫させている。冬期に向けて多客期を迎えるとはいえ、コロナ前に到底戻っていない状況での燃料費コストアップは非常に厳しい。（運送業）
- ・コロナの影響で、直接的な営業活動が再開できていない。コロナ対策の設備投資は全て自己負担であるため影響を受けている。官公庁からの受託は例年並みと見込んでいる。慢性的に人手が不足しておりワークシェアリングを実施しているが、仕事量が多いため、個々の負担が大きくなっている。（建設業）

- ・旭川市内の感染者が再び増加してきたことから、利用者の回復状況は足踏みをしている。(運送業)
- ・現状、コロナ前の20%程度(8割減)。1年半にわたり影響を受け経営が逼迫。車検時に車検更新しない状況も増えているが、将来の需要回復期に対応できないことを危惧している。(貸切バス事業者)
- ・コロナ禍により、ツアー数の減少、観光バスの乗客数制限等の影響を受け、個人客が半減している。(宿泊業)
- ・コロナ前で言えば、夏は観光客、秋冬はビジネス客の利用が多かった。ここ数年は送電網整備関連の工事関係者の利用が多く、業績が伸びている。(宿泊業)

【サービス業】

- ・コロナによる売上減に対する支援、原油高に対する支援及び人流の活性化策を期待する。(普通洗濯業)
- ・宿泊者の内訳は、工事関係者が8割、観光客が2割。客室は埋まっているが、工事関係者は単価が低いいため、売上が伸びていない。10月もある程度の予約は入っているが、昨年度のG o T oトラベルと比較すると半分程度。(宿泊業)
- ・コロナの影響は深刻で、外食の低迷がこの先もしばらく続くと思われる。(飲食店)
- ・お客さんが常連しかきていない。(飲食店)

【関係機関・団体】

























- ・飲食店は個人客の客足は戻っている。(観光関係団体)
- ・人手不足感はない。建設業は人を囲い込む意図もあり、季節労働ではなく通年雇用にしている。(商工会)
- ・小売店(酒店)の売上が現在も減少中で厳しい状況が続いている。飲食関係は年末の宴会が入っていない状況で、こちらにも回復には時間がかかる模様。(商工会)
- ・飲食店については、まだ人数制限等があるため思うような回復は見込めないが、国道沿いの飲食店は、駐車台数からも来客数は増えている。(商工会)
- ・10月から、飲食券の販売と、プレミアム商品券の販売により、先月に引き続き飲食業および小売業において商品効果が出てきている。感染対策は継続することになると思われるが、年末に向けた経済の好循環は続くものと思われる。物価上昇が懸念材料。(商工会議所)
- ・11月には、いつも忘年会の予約が飲食店に入っていたが、今年もまだ忘年会の予約がゼロの飲食店が多くあり、昨年にも続き飲食店は厳しい状況下である。しかし国の支援金、また道のA、B、Cの支援金により継続する活力があり現状頑張っている。(商工会)
- ・感染者が減少していることから、飲食店の集客については多少良くなっている。(商工会)
- ・緊急事態宣言が解除になってからも人の動きは変わっていないように思う。(商工会)
- ・11月からプレミアム商品券発行事業を実施。商品券の売れ行きは好調であったものの、原材料高騰による物価の上昇や石油価格高騰による影響からか、地域内での消費活動は鈍い。また宴会自粛等の影響により、飲食店における売上回復はまだ見込めていない。(商工会)
- ・12月の忘年会の状況は0件で、飲食店は厳しい状況。(商工会)
- ・12月になり、人流の増加によって売上が増えたものの、団体での宴会は懸念されており、売上はいまだに回復しない。(商工会)

2 道内金融機関から見た地域景況感 (10~12 月期)

① 非常に好調 	② 好調 	③ やや好調 	④ 普通 	⑤ やや低調 	⑥ 低調 	⑦ 非常に低調 
---	--	--	--	--	--	---

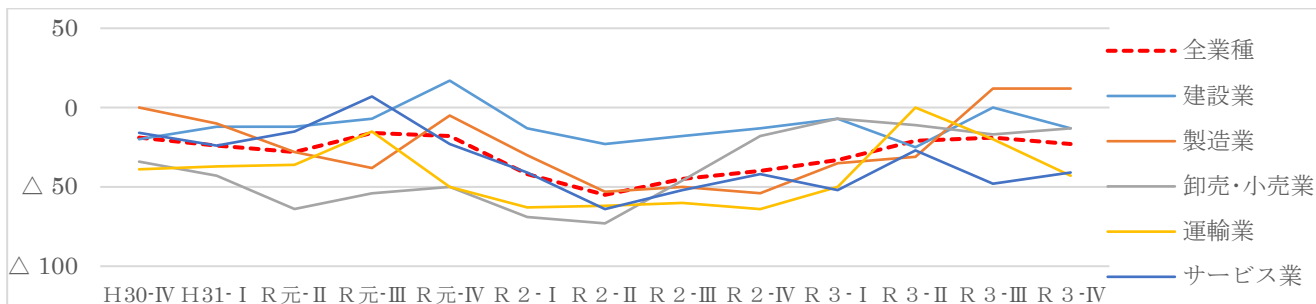
【直近の景況感】	現在の景況感				次期見通し	
	総合	生産 動向	消費 動向	判断理由	方向感	判断理由
旭川信用金庫				多くの業種で前期より上昇傾向が見られたが、どの業種も若干の上昇であり、景況感的にはあまり変化を感じられない結果となった。具体的には建設業が最も好調であったが、次期では多くの業種で再び下降傾向が見られた。		今期上昇傾向だった業種も、次期では再び下降傾向が見られるため、景況感是不変であると判断をした。引き続き低迷状態は続いているが、コロナウイルスをきっかけに、多くの業種が働き方改革に意識を向けていると感じられる。低迷状態も一番の底は過ぎたと感じるが、少しでも早く安定した景況感を望みたい。
北星信用金庫				資材価格の増加傾向(新型コロナウイルスの影響による原産国仕入れルート悪化)、人材不足・販路減少と地域景況は依然として厳しく、生産・消費動向については「低調」と判断した。 緊急事態宣言は解除されたが、道北エリアにおいて感染者が確認されたことから、依然として警戒感は強まっており、宿泊・飲食業においても引き続き痛手となったこと、消費も冷え込む傾向にあり、総合では「低調」と判断した。		依然として新型コロナウイルスの感染拡大の懸念がもたらす影響は大きく、緊急事態宣言解除後においても緊張は続いており、景気の回復には時間がかかるものと思われる。 特に、宿泊・飲食業における業況回復には時間を要すること、また建築業においては家庭用給湯器の供給遅延による影響懸念など、しばらくは低調推移が見込まれることから「変わらない」と判断した。
留萌信用金庫				今期の景況感は、前期と比較すると生産動向(売上 DI)は横ばい、消費動向(収益 DI)は△18.1 と新型コロナウイルスと、季節的要因の影響により下降している。総合的(業況 DI)には、△6.0 と 14.7 ポイント上昇しているため「やや低調」と判断した。		次期の景況見通しについては、新型コロナウイルス収束の時期が見通せず、多くの企業が先行きに不透明感をもっており、また季節的要因も加わったため、厳しく予想している回答が多かったことから、「下降傾向」と考えられる。
稚内信用金庫				当金庫で行っている景気動向調査によると、コロナ禍で DI が低調だった前年同月より、水産加工業をはじめとする製造業を中心に改善傾向を示したものの、建設業・運輸業では、資材・燃油の高騰などを背景に収益 DI が悪化したほか、サービス業も営業停止や移動制限などが解除され、最も厳しい状況からは脱したものの、依然軟調なことから、総合を「やや低調」、生産動向を「普通」、消費動向を「低調」と判断した。		同調査によると、売上額 DI (△43.0)、受注額 DI (△46.4)、収益 DI (△39.4) で、前年同期よりおおむね改善を示すものの、依然低調という判断が多くみられる。 また閑散期となるため、全業種で例年以上に厳しい状況が続くことから、「下降傾向」の見通しとなった。

【景況感の推移】

	R2-I	R2-II	R2-III	R2-IV	R3-I	R3-II	R3-III	R3-IV
旭川信用金庫								
北星信用金庫								
留萌信用金庫								

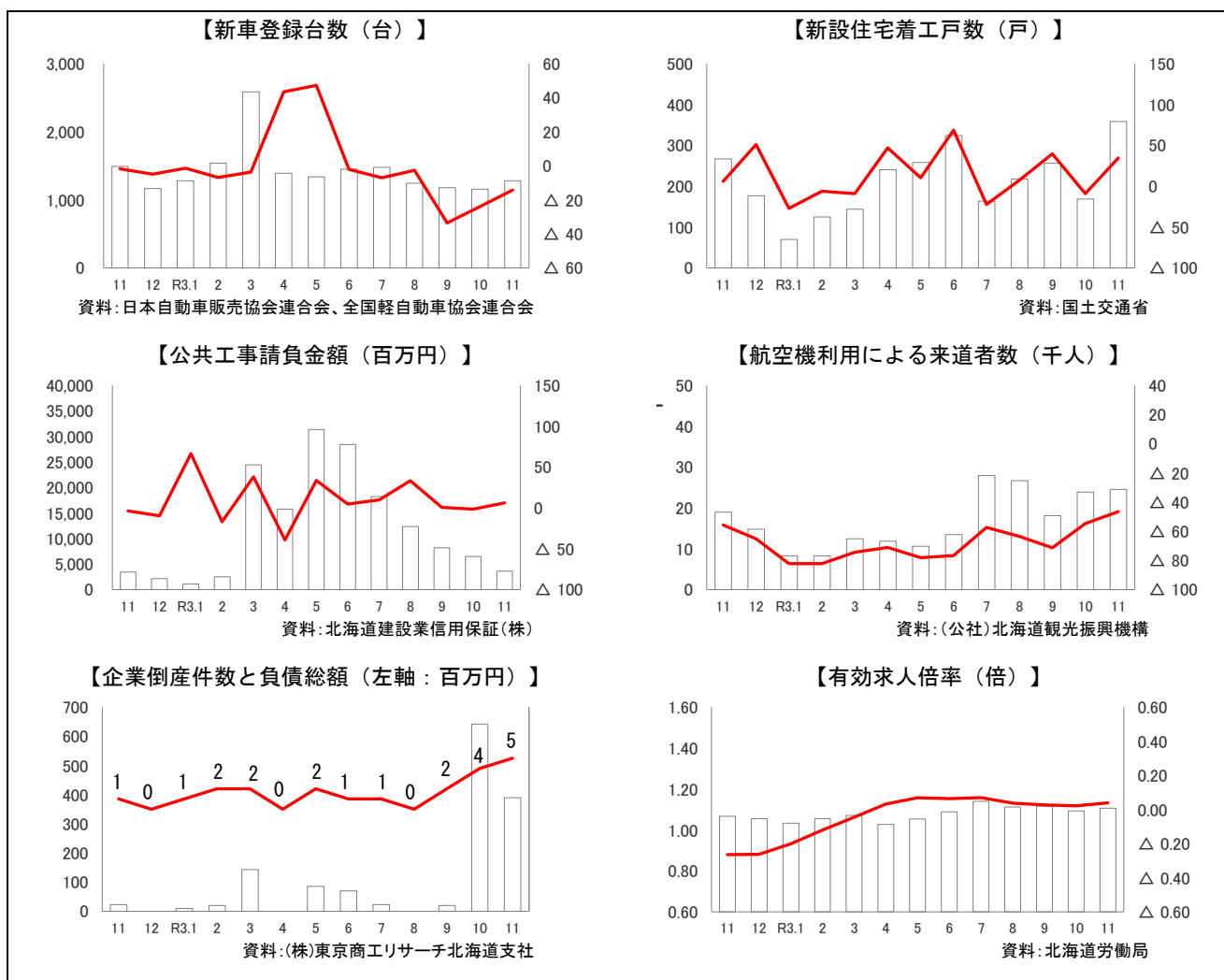
稚内信用金庫								
--------	---	---	---	---	--	---	---	---

3 業種別の業況感BSI (企業経営者意識調査)



	H30-IV	H31- I	R元- II	R元- III	R元- IV	R2- I	R2- II	R2- III	R2- IV	R3- I	R3- II	R3- III	R3- IV
全業種	△ 19	△ 24	△ 28	△ 16	△ 18	△ 42	△ 55	△ 45	△ 40	△ 33	△ 21	△ 19	△ 23
建設業	△ 20	△ 12	△ 12	△ 7	17	△ 13	△ 23	△ 18	△ 13	△ 7	△ 25	0	△ 13
製造業	0	△ 10	△ 28	△ 38	△ 5	△ 30	△ 53	△ 50	△ 54	△ 35	△ 31	12	12
卸売・小売業	△ 34	△ 43	△ 64	△ 54	△ 50	△ 69	△ 73	△ 46	△ 18	△ 7	△ 11	△ 17	△ 13
運輸業	△ 39	△ 37	△ 36	△ 15	△ 50	△ 63	△ 62	△ 60	△ 64	△ 50	0	△ 20	△ 43
サービス業	△ 16	△ 24	△ 15	7	△ 23	△ 41	△ 64	△ 52	△ 42	△ 52	△ 27	△ 48	△ 41

4 各種経済指標



(右軸：来道者数のみ前々年同期比、その他は前年同期比(差)：%)